

令和5年度 探究活動「とち創生学」 課題テーマと内容

令和2年度から実施している探究活動「とち創生学」は、地域の課題解決、魅力ある地域づくり、地域の特産品開発に取り組んできました。探究の過程（課題設定、現状分析、仮説構築、解決策検討、解決策提案）を踏みながら、ロジカル（論理的）に考えることを徹底して行ってきました。

令和5年度からは新たな取組として、探究サポーターを地域から募集して、より地域に密着した地域のリアルな課題に取り組めます。

1 消えゆく本別での豆腐づくり … 「豆ではりきる母さんの会」代表 山田 富江 氏

(1) 経緯と課題

2000年度から農協婦人部の会員が中心となり、本別産大豆の豆腐づくり行ってきた。町内スーパーや町内外のイベントで、豆腐や油揚げなどの販売や豆の町のPRの役割も担ってきた。しかし、近年、会員の高齢化、後継者不足、設備の老朽化、消費者の安価な豆腐（海外産大豆）への嗜好、さらに光熱費や人件費などの経費がかさむなど利益はほとんどなく、会員のボランティアで成り立っている状況にある。現在、週1～2回程度の活動を続けているが、今後継続できても5年程度である。



(2) 課題提示者の願い

高校生の柔軟な発想で本別の豆腐づくりを考えてもらいたい。

2 意外とすごい本別の仕事、なくなってしまう仕事 … 商業 尾崎 将寛 氏

(1) 経緯と課題

後継者のいないスペシャリストが町には沢山います。これからの町に必要なスキルがもしなくならずに済む方法をみんなで考えましょう。また、私たちも知らなかった本別のスペシャリストを探してみませんか。



(2) 課題提示者の願い

人や技術の視点から町を見る・知るを試みましょう。

3 人口減少と働き手の不足・豆の町本別をアピールしたい … 農業 若林 健一 氏

(1) 経緯と課題

人口減少と働き手不足について、漠然としていますが、どの町村でも同じだと思います。人口を増やすために何をしたらいいのか？どうして減少しているのか根本的なことが知りたいです。

さらに、豆の町本別町をアピールしたい。カントリーサインにもなっている豆の町本別町ですが、日本一のものがありません。1月末に行われる日本一の豆まきイベント「豆まかナイト」を日本に発信できるイベントにしたい。



(2) 課題提示者の願い

以上2つの課題に対して、高校生の柔軟な発想で考えてほしい。

4 大豆ミートの使い方

… JA本別町 農産部 食品開発課 柳澤 真佐美 氏

(1) 経緯と課題

大豆ミートを使用したレトルト食品を開発したのですが、レトルトに使用する大豆ミートは1回の製造に1/3で、残り2/3は一般の方に販売する事となります。

まだまだ、大豆ミートの使用方法や大豆ミートのメリット等は知られていなく、使い方も理解されていません。

(2) 課題提示者の願い

大豆ミートの使い方や豆の町らしい大豆ミートを使ったメニューを考えてほしい。本別町内の飲食店に大豆ミートを使用したメニューを提案したり、本別町を代表するホームページ（JA）でも紹介してほしい。



ような豆弁当を考えてほしい。レシピは

5 本別へ新しい人の流れをつくる

… 本別町企画振興課 山岡 裕幸 氏

(1) 経緯と課題

本別町は昭和34年の18,858人をピークに人口は減少を続けています。少子高齢化社会において、増加に転じることは不可能ですが、本別町が将来にわたって元気で活力ある「まち」を継続するためにも、若い世代の流入が重要です。

現在役場の企画振興課では、本別への新しい人の流れをつくるため、関係人口を拡大し最終目標である、移住・定住に結びつくよう事業を実施しています。

しかし、本別に移住してほしい若者（ターゲット）に向けたアピールが上手くできていない状況です。SNSやマスコミを使ってPRする方法は思いつきますが、どのようなポイントで、



町を魅せていくかが、課題となっています。

(2) 課題提示者の願い

- ① 今年の2年生はその手法の一つとして、エシカル製品の発想から商品化することを提案していました。その商品をブランディングし、町を魅せる方法が一つ考えられます。継続し、「豆のまち本別」を魅せる具体的な方法を検討してもらいたいです。
- ② 今年の2年生はその手法の一つとして、町外通勤者に手当を支給することを提案していました。このように、実際に旅行や仕事で訪れる人たちや、移住してきた人々にメリットとなる具体的なPR方法を検討してもらいたいです。